

緩和ケア担当医師
部長 尾崎 公俊

はじめに

阪和第二泉北病院の緩和ケア病棟は、2017年5月現在、延べ77,918名の患者さまにご利用いただきました。この長い歩みの中でたくさんの患者さま、ご家族との出会いから学び得たことを、これからも大切に、スタッフ皆で力を合わせて“こころのこもったケア”を提供し続けていきたいと思っています。

緩和ケアとは

抗がん治療などの積極的治療を目的とはせず、がんによる辛い症状をもつ患者さまに対して全人的ケアを提供する病棟です。
身体的な苦痛を軽減するための治療を行うだけでなく、精神的な苦しみもやわらげ、患者さまとご家族が少しでも快適に、そして充実した日々を過ごしていただけるように、チームでお手伝いさせていただきます。

病棟方針

「限りなく日常に近い 入院生活を」

1. 患者さまとご家族の身体やこころの苦痛の緩和に努め、「気持ちよく」過ごせる環境を整えます
2. 患者さま、ご家族に寄り添い、悩みを共に考え、意思決定を大切にします
3. 患者さまの意思を尊重し、最期まで「あなたがあなたらしく生きる」ためにチームで精いっぱいサポートします

～ 緩和ケア病棟の現場からみなさんに伝えたいこと ～

がんと闘う皆さまは、計り知れない苦痛や苦悩を抱えていらっしゃるかと存じます。皆さまはその症状を、がんの治療を優先して我慢したり、必死に耐えてこられたのではないのでしょうか。

一旦治療を終えられた方も、痛みや身体のだるさ、なんともいえない不安な気持ちや気がかり等があって、なかなか眠れない夜があったり「大切にしたい日常生活」が損なわれてはいないのでしょうか。

私たちはそんなあなたの頑張ってこられた日々を受け止めたい、そんな「あなた」をこれから精いっぱい支えたいと思っています。そしてそんなあなたを支えてこられたご家族の力になりたいと思っています。

「今、何を大事に過ごしたいですか？」

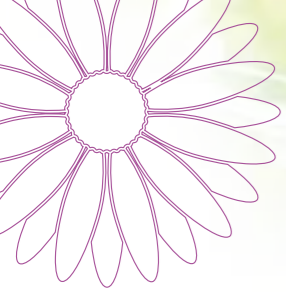
「誰と一緒に過ごしたいですか？」

「我慢しなくてもいいんですよ。」

どうしたら気持ちよく過ごすことができるのか、

みんなで一緒に考えていきましょうね。」





当緩和ケア病棟でできること

痛みの緩和について

「がんの末期は痛みでのたうちまわるのではないですか？」

最期は痛みだけは取ってください」

患者さまご家族よりよく聞かれる言葉です。

このように、がんの症状として特に気がかりな症状が「痛み」です。

しかし医療の進歩により、近年ではほとんどのがんの痛みは取り除いたり、和らげることができるようになってきました。

緩和ケア病棟の大事な役目のひとつは「痛みの緩和」です。

その為に、当院では痛みの緩和に欠かせないオピオイド製剤の種類も豊富に取り揃えています。これは、患者さまそれぞれの痛みの性質や痛みの程度、効果などの微妙な差異に応じて選択できるだけでなく、患者さまの好み、生活パターン、ニーズを考慮した個別な対応が可能となり、患者さまにとってもメリットは大きいと感じています。WHO方式のがん疼痛治療法に準じながら安全に、かつ専門的に疼痛治療をすすめますので、深刻な副作用の出現もほとんどありません。

しかし、中には「薬はなるべく使いたくない」とおっしゃる方もいらっしゃいます。その為に私たちスタッフは、薬物療法に加え、患者さまが「心地いい」「楽になった」と感じていただける時間を少しでも多くもっていただけるように、様々な専門職種と力を合わせて、ケアに取り組んでいます。

自宅のような空間を

「人生の最期を、住み慣れた我が家で、家族に囲まれて迎えたい」

そう考える人は少なくありません。しかし、在宅療養の継続は困難な場合が多いのも事実です。当病棟では、死を「誰にでもやってくるごく自然なもの」として捉え、できるだけ在宅に近い環境で最期を迎えられることを目指しています。

具体的にいうと、点滴・モニターなどのチューブ類をなるべく少なくし、自然な姿勢に近づけること。延命の為だけの無理な点滴は行いませんし、心電図モニターも使用しません。また、ご家族がゆっくり付き添える環境を提供します。

家族の看取りを支えたい

患者さまにとって、何より親密で信頼のおける相手は、ご家族において他にはありません。ご家族だからこそ、医師や看護師に真似のできない看取りができるのです。当病棟での主役は患者さまとご家族です。医師・看護師をはじめとする医療チームメンバーはそれを支える黒子の存在にすぎません。縁あって当病棟に入院していただく患者さまが、よりよい時間を過ごせますように、ご家族が悔いのない看取りをしていただけますように。

スタッフ一同、患者さま、ご家族の良きパートナーでありたいと願っています。

～ 専門職チームで 限りなく日常に近い日々を～

医師：がんの身体的苦痛の緩和を専門的に行っています。(主治医不在時は病棟担当医が代わりに診察します)

看護師：苦痛の緩和に努め、その人らしく過ごせるよう生活面の援助を行っています。

看護補助者：日常生活の援助の手伝い、気持ちよく過ごせる環境作りの手伝いをしています。

緩和ケア認定看護師

：がんの苦痛や苦悩を専門的に和らげる看護を専門とし、苦痛緩和の相談をお受けしたり、病棟看護師と共に苦痛の緩和、日常生活の援助を行っています。

薬剤師：痛みの治療に使う薬やその他服用している薬などについて説明に伺ったり、相談をお受けしています。

アロマセラピスト

：患者さま、ご家族へやさしい香りとマッサージを提供しています。(2日/週)

ボランティア：患者さま、ご家族へホッとさせるティータイムを提供しています。(3日/週)

臨床心理士：少しでも気持ちが和らぐようお話を伺いに訪問しています。

管理栄養士：基本の食事以外に、出来るだけ嗜好やご希望にそえるよう相談をお受けしています。

歯科衛生士：歯の治療や専門的な口腔ケアを行っています。

リハビリ：マッサージなどのリラクゼーションや、日常生活動作援助、気分転換活動など、やりたいことが出来るように機能の維持・向上を目指したリハビリを行っています。

医療ソーシャルワーカー

：入院中の心配事や、福祉制度の利用について、また入院中の外出・外泊時のサービス利用など社会的な問題についての相談をお受けしています。



緩和ケア だより

桜に負けない
満面の笑みに
つまれて



「お花見」

私は、2015年4月1日、ちょうどお花見のイベントがある日に入職しました。

初めてお会いするスタッフや患者さんと御家族と一緒に近くの公園にお花見に行ったのを昨日のことに感じます。

「1年後、こうして患者さんと御家族と一緒にまた桜が見れたらいいなあ」と新しい環境に期待半分、不安半分の気持ちで見た桜とは違い、今年の桜はとても胸がいっぱいになるお花見でした。

「あんた、明日のお花見来るやろ？一緒に行こう。」前日から病棟はお花見の話題でいっぱい。

当日のお花見は満開とは言い切れませんでした。晴天に恵まれ桜には負けないほどの満面の笑みに包まれていました。

普段はガタガタした道路も、なぜか足取りも軽く笑いが絶えない道のり。こんなに公園近かったっけ？と思わされるほどでした。

「すごくキレイ。来て良かった。」
「しんどいこと忘れられる。全然痛くない。」
苦痛な症状があり明日のお花見行けるかな？と思っていた患者さんも一緒に…。御家族やスタッフと過ごす姿は、病室では今まで見たことのない笑顔でした。

みんなで歌った「さくら さくら」。公園いっぴいに広がる声はとても優しく、私たちも心が温くなりました。そういう気持ちにさせてくれる桜ってすごいなあ…と感じさせられました。

今までは、当たり前のように桜を見て「春が来たなあ」ぐらいにしか感じなかったけど、ここに来て桜への思いが変わりました。

桜と一緒に見た患者さんが「お花見楽しかったわ。息がしんどいの忘れさせてくれた。こうしてまた桜を見れるとも思わなかったし、生きていることに感謝した。来年は見れないんだなあって思うと寂しいし、家族にも寂しい思いをさせるけど。幸せを感じれる時間だったわ。」涙いっぴいに話してくれた患者さんに寄り添い、同じように先日見た桜を思い出しながら涙を流し、その時間を噛みしめました。

その時間を一緒に過ごせたことに、そう気づかせてもらったことに感謝しながら…



香りのチカラを、
こころ良い
毎日のチカラに



阪和第二泉北病院で、2016年6月より患者様やご家族のケア、そして病棟全体のサポートとしてアロマセラピーが導入されました。

現在2人のアロマセラピストが月曜日と土曜日、13時から21時まで、皆さまのケアに当たっています。

患者様、ご家族様の表情が和らいで



まだ2ヶ月…とはいえ、変化や嬉しいご報告をたくさんいただきました。

看護師からは、患者様の夜の睡眠を確保できたのよ、とある患者様は、身体に触れられることをとても拒んでいたのに、身体の怠さの訴えにアロマをお勧めし、アロマトリートメントの心地よさに触れ、その後のトリートメントをととても楽しみに過ごし、さらに就寝時には枕元に香りを置いて眠るなど、アロマを存分に味わっておられました。また、アロマトリートメントを受けてくださったご家

族からは、患者様のエピソードや、ご自身のことなどをたくさん語られ、「気分転換になりました」とお言葉を頂戴しました。私達が患者様のケアをしている時、側にいるご家族から「いい香り〜」と。患者様と共に和らいでいくご家族の表情がなんとも言えず嬉しくなります。

アロマセラピーのタッチングと香りは、患者様だけでなく病室の雰囲気さえも穏やかに包み込んでくれるのです。

ここに来てよかったと感じていただくために

心と身体の痛み、眠れないつらさ、心配事をたくさん抱えておられる患者様。付添われ、看病をするご家族にもまた、患者様と同様に心身の疲労があります。

患者様を思うご家族、そして、ご家族のことを思う患者様。思いの大きさは、まさに鏡。

患者様もご家族もみんな一緒です。しんどい時はみんなしんどい、穏やかな時はみんな穏やか。

誰かがしんどい…そんな時こそ、香りや手にチカラを貸してもらったり、ほんのひとときでも身体を委ねてみるのもいい。我慢しない…。

私達2人のアロマセラピストがいつも目標にしていること、「ここに来て良かった」と家族みんなで感じていただきたい…



ボランティア スタッフの声



気分が和らいでいただくことを祈りながら

私は平成18年からこの病棟のティーサービス・ボランティアをさせていただいています。「このコーヒー、おいしいね」と、患者様やご家族に言われたり、「コーヒーの香りが廊下に漂ってくるだけで癒されるワ」と、看護師さんにまで言われると、お茶のボランティアをしてよかったなあと思います。

最初は、「お茶はいかがですか？」とお伺いすると、「せっかくウトウトしかけたのに！」と叱られたり、「寝ているようでも眠ってないから声かけてネ」とおっしゃる方にホッとしたり。

味覚が変わってしまわれたのか、甘い・辛いと感想を言われる方あり、ご家族やお見舞いの方にもお茶のサービスをしますので、ぬるい・熱い・薄い・濃いなどと感じ方もさまざまです。

この病棟のティーサービス・ボランティアである私達の多くは『若くてピチピチしたウェイトレス』ではありません。患者様からみれば母親か、祖母か、近所のおばちゃんのような感じでしょうね。

世間ばなしや苦労ばなしなどを聞かせていただくこともありますが、私にできることはただこれだけ。淡々と、でもこやかに、暖かく、気分が和らいでいただけるよう祈りながら、お茶を差しあげることです。

「このお茶は心をこめていれました。どうぞ」時々、お部屋まで懐かしい歌など歌わせていただいています。フラダンスとクリスマス・コンサートもボランティア主催で行っています。



ボランティア スタッフの声



励ましを漂う花の香に託して

週に一度デイルームにお花を生けています。そこで多くの嬉しい出会いが生まれています。

通りかかった患者さん、ご家族、そしてスタッフがその日に準備した花に吸い寄せられるように近づき、花談義が始まります。ときには花の到着をまってくださっている方や、「夕方には花を見にデイルームまでゆくために午前中は体調を整えているのよ」と話して下さる方もおられます。

又眠れない夜を共に過ごしているご家族が、ふと一息つく為に人けのない静かなデイルームに來られ、夜気に漂う花の香に、胸の痛みを伴うご家族への深い想いや、いとおしさ、哀しみがこみ上げ涙したと、お話しくくださったこともありました。

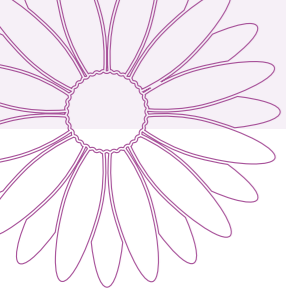
ご近所や我が家の庭に咲く季節感あふれる花々も飾ら

せていただいています。生け花と共に、私は患者さんやご家族にマッサージをさせていただいています。こんな穏やかな表情久しぶりと言われるご家族、次はいつ来るのかと尋ねられたり、待っていましたよと言ってくださる方もおられます。

マッサージで身体が緩むと心も緩むのか、とても普段は何えなような深いお話をしてくださる方も。心をこめてその方のお話に寄り添う為に、まずは自分を知らなければならず、そんな学びも必要になっています。

ボランティアさせていただくことは、自分の学びを深めることに繋がると考えています。





緩和ケア病棟 ご入院までの流れ

1 電話相談

医療ソーシャルワーカーがお話をうかがいます。
見学のみご希望の場合もご案内させていただきます。お気軽にお問い合わせください。

医療法人錦秀会 阪和第二泉北病院 医療福祉相談室
TEL **072-277-1401** (代表) / FAX 072-341-8080 (直通)
(受付時間：月～土(日・祝除く) 9:00～17:00)

2 面談日予約

お話をお聞きし、面談日予約を入れさせていただきます。

3 面談・見学 (2時間程度)

患者さまが来院できない場合は、ご家族のみお越しください。
担当医師、看護師、医療ソーシャルワーカーがお話をうかがいます。

持ち物(現在かかっておられる医療機関にご相談ください)

- ①紹介状(診療情報提供書)
- ②レントゲン、CT等の画像データ、採血データ
- ③看護サマリー(ご入院中の方のみ)
- ④健康保険証(カルテ作成のため)
- ⑤診察券(当院受診歴がある方のみ)
- ⑥診察(面談)料(患者さまが来院された場合、健康保険が適用となり診察料が発生します。ご家族のみお越しいただいた場合、発生しません。)

4 待機

他の待機患者さまの病状などを考慮しながら入院日の決定を行った上でご連絡いたします。

5 ご入院

当院よりお迎えに参ります。(車中で必要な医療処置や移動距離によっては、お迎えのご希望に添えない場合もございますので、予めご了承ください。)

入院費用月額換算表

①入院料・食事代 70歳未満の方

	入院料	食事代
区分ア	252,600円+(総医療費-842,000円)×1%	32,400円(360円/食)
区分イ	167,400円+(総医療費-558,000円)×1%	32,400円(360円/食)
区分ウ	80,100円+(総医療費-267,000円)×1%	32,400円(360円/食)
区分エ	57,600円	32,400円(360円/食)
区分オ	35,400円	18,900円(210円/食)

(平成29年7月1日現在)

70歳以上の方(後期高齢者医療保険・各保険の高齢受給の方を含む)

	入院料	食事代
一定以上所得者	80,100円+(総医療費-267,000円)×1%	32,400円(360円/食)
一般	57,600円	32,400円(360円/食)
区分Ⅱ	24,600円	18,900円(210円/食)
区分Ⅰ	15,000円	9,000円(100円/食)

※各種、医療証・助成証等により入院料が変わります。詳しくはお問い合わせください。(平成29年7月1日現在)

②日用品代(使用された場合)

パンツ	135円/日
ロングパンツ	135円/日
シャツ	135円/日
靴下	43円/日
タオル	43円/日
おしぼりセット	189円/日
おしぼりセット(エプロン無し)	156円/日
病衣	108円/日
パジャマ	108円/日
バスローブセット(入浴時)	540円/回

(平成29年7月1日現在)

③おむつ代(使用された場合)

紙おむつ	113円/枚
リハビリパンツ	172円/枚
尿とりパット	86円/枚

(平成29年7月1日現在)

④療養環境

差額室料あり	7,560円/日(4室) (507・508・510・511号室)	洗面台、冷蔵・冷凍庫、トイレ キッチン、ソファベッド、浴室
	5,400円/日(1室) (501号室)	洗面台、冷蔵・冷凍庫、トイレ キッチン、ソファベッド
	3,240円/日(2室) (503・506号室)	和室、洗面台、冷蔵庫、トイレ
差額室料なし	個室(8室) 3人部屋(2室)	洗面台、冷蔵庫、トイレ (他の患者様の病状に応じて、部屋移動をお願いすることがあります。)

(平成29年7月1日現在)

月額概算額 ①+②+③+④

保証金(入院時ご用意ください。退院時全額返金いたします。生活保護受給中の方は不要です。)

7,560円部屋	14万円
5,400円部屋	12万円
3,240円部屋	10万円
差額室料なしの部屋	7万円

(平成29年7月1日現在)



家族控え室



洗面・洗濯室



食堂談話室



やさ ぎの空間が
患者さまをお迎えいたします。



三人室



個室(和室)

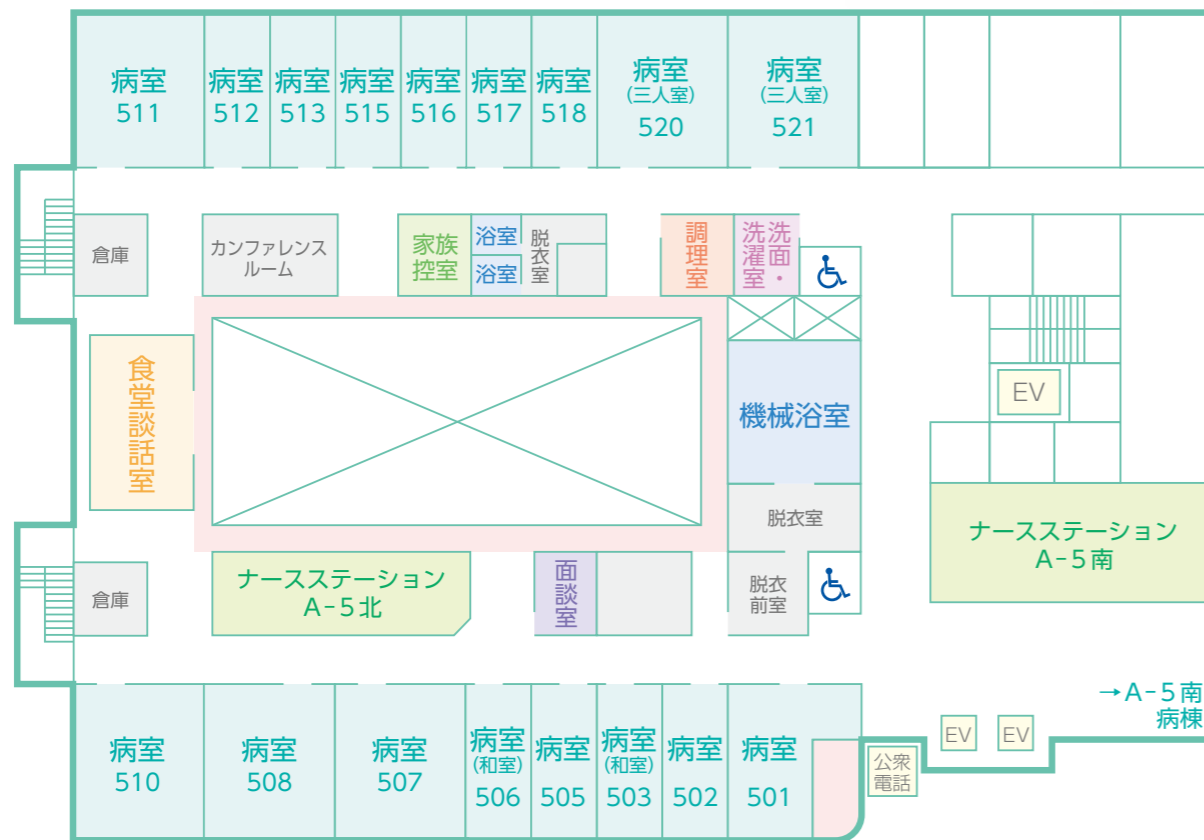


特別室



個室(洋室)

* 施設案内図 facilities map



☀️ 病室 Care room

患者さまが日々を過ごす病室は、ニーズにあわせて様々なタイプをご用意しておりますが、全て広々と明るい空間となるよう心がけています。個室には和室もご用意致しておりますので、患者さまのお好みにあわせて選んでいただけます。

外出、外泊はいつでも可能です

主治医の許可が必要になりますので、あらかじめご相談ください。

面会時間の制限はありません

24時間いつでも面会が可能です。但し19時以降の面会は夜間救急入口からお入りください。また患者さまやご家族の希望で面会の制限も可能です。

ご家族はいつでもお泊りいただけます

ソファベッドをご用意している病室があります。それ以外の病室でも簡易ベッドの貸し出しや宿泊のできる家族控室を無料でご利用いただけます。

お酒について

お酒によって辛さが和らぐようでしたら、少量嗜むことができます。なお、お酒は患者さまのみ許可しております。なお、たばこは敷地内全面禁煙となっております。

アロママッサージを受けていただくことができます

アロマセラピストがスタッフとして勤務しています。患者さま、ご家族のコンディションをお聞きしてオイルを選び、マッサージを提供させていただいております。



ペットの面会も可能です

小型犬、猫などのペットは、鳴き声や臭い、病気等の問題がなければ面会することができます。病室まではケージに入れてお連れください。

ご家族と一緒に楽しんでいただけるレクリエーションを毎月実施しています

12月はクリスマス会、2月は豆まき、4月はお花見など…季節を感じることでできる行事を、患者さまの体調にあわせて、屋外、または病室内でも楽しんでいただけるように企画しております。

ボランティアスタッフによる様々なサービスを提供させていただきます

患者さま、ご家族へのティーサービス、共有スペースでのフラワーアレンジ、イベントのお手伝いなどを行うボランティアスタッフが、快適な入院生活のためのお手伝いをさせていただきます。



調理室



面談室



機械浴室



浴室

🚿 浴室 Bath room

浴室は共同風呂ではなく、完全個室タイプの浴室で、患者さまのプライバシーを重視しております。また、お体の具合が悪く、自力での入浴が不可能な患者さまのために機械浴室をご用意しております。